

合浦

季は	地は	シテ	後	シテ	ワキ	前
夏	唐土	鮫人		童子	合浦の里人	

「是は唐合浦と申す所に住居する者にて候。今日は日もうらゝに候ふ程に。浦に出で釣するを詠めばやと存じ候。

シテ一聲「わたづみの。そこともいさや白波の。龍の都を出づるなり。

詞「いかに此屋の内に主やまします。一夜の宿をかし給へ。

「日もはや暮れてとざしつるに。宿とは誰にてまし

ますぞ。

シテ「よし誰なりとも其情に。一村雨の雨宿り。一夜の宿をかし給へ。

ワキ「たゞく水鶏の外面に立つや久方の。埴生の小屋に小雨ふる。

シテ「床さえぬれば。

ワキ「我妹子が。

地「ひぢ笠の。雨は降り来ぬ雨宿り。雨は降り来ぬ雨

宿りの。頼む木陰かや。一樹の陰のやどりも。此世ならぬ契なり。一河の流れを汲みて知る。合浦の浦の江のほとり。鱗もなどや命恩の。其情をば知らざらん。く。

ワキ詞
「何と見申せども更に人間とは見え給はず候。名を御なり候へ。

シテ
「今は何をかつゝむべき。我は鮫人といへる魚の精なり。命をつがれまるらせし。報謝の為めに來りた

り。我泣く涙の露の玉。絶えぬ宝となるべきなり。地
「鮫人涙に。玉をなして命恩を。宝珠をなほも捧げて。合浦にも入らせ給へと。前なる渚の波の上に。入るよと見えつるが。白魚となつて其まゝに。ひれふして失せにけり。あとひれふして失せにけり。

(中入)

後ジテ
「龍女は如意の宝珠を釈尊に捧げ。変成就の法をなし。

地
「奈落や奈落の底の白魚なれども。など命恩を報ぜ
ざらんと。波立ちさわぎ汐うづまいて。うたかた
の上にぞ顕はれたる。

シテ
「是こそ真如の玉の緒の。

地
「是こそ真如の玉の緒の。寿命長遠息災延命の宝の
玉は。当来までの。二世の願ひも成就なるべし。
是までなりや。織りつる綾の浦は合浦。玉はふたゝ
び帰る波の。千秋万歳の宝の玉は。く。合浦の
浦にぞをさまりける。